

西尾高校創立100周年記念式典

悠久の未来へ、今後の飛躍を誓う

西尾高校創立100周年記念式典が10月27日、同校で開かれました。1918年(大正7)年に西尾町立高等女学校として設立された同校。1948(昭和23)年に旧制西尾中学校と合併して男女共学の県立西尾高校となり、これまでに延べ約3万3,000人の卒業生を輩出しています。式典では、在校生を代表して2年生の太田昌吾さんが誓いの言葉を力強く述べていました。西尾高等女学校、旧制西尾中学校の校歌が流された後、吹奏楽部の演奏に合わせて西尾高校の校歌を斉唱。地域とともに歩んできた100年の節目を盛大に祝っていました。



学生議会

私たちの声届くかな

福地・東部・寺津中学校の3校で今年度行われる、新規事業「学生議会」が10月29日、福地中学校で開かれました。子どもたちの豊かな発想力やアイデアを市政運営の参考にしようで行われた取り組みで、1～3年生8人が参加。西尾市のまちづくりをテーマに、特産品を取り扱うアンテナショップの整備や子育て支援の充実など、中学生ならではの視点での提案や質問を市長や市職員に堂々と発表。市長の回答にしっかり耳を傾けていました。



西尾の秋まつり

各地で伝統の祭りが行われる



10月21日と28日に市内各地で伝統的な秋祭りが行われ、中畑八幡社(中畑町)では「おまんこ祭」が開催されました。走る馬の首を青年が見事につかんで勢いよく併走する姿に、訪れた大勢の見物客から大きな拍手が沸き起こっていました。

第27回「西尾の抹茶」の日

抹茶をたっぷり楽しんだ2日間



11月3日・4日に第27回「西尾の抹茶」の日が開催されました。会場の文化会館では無料呈茶サービスや抹茶アート体験、抹茶づくり(石臼びき)体験などさまざまな催しが行われ、市内外から訪れたたくさんの人が、抹茶の魅力を存分に味わっていました。

秋の叙勲・褒章

長年にわたる多大な功績

秋の叙勲と褒章の受章者が、11月3日に内閣府から発令されました。市内では、地方自治功労の田中弘氏(熊味町)が旭日双光章、中小企業振興功労の都築勇一氏(一色町)が旭日単光章、検察事務功労の石川数雄氏(田貫町)、郵政事業功労の手嶋征秋氏(吉良町)が瑞宝小綬章、労働行政事務功労の清水正美氏(寄住町)が瑞宝双光章、自然保護功績の筒井一雄氏(一色町)が藍綬褒章を受章されました。



市民病院ふれあい祭り

医師や看護師の仕事を楽しく体験

10月20日、市民病院ふれあい祭りが開催されました。地域の皆さんとふれあい、病院についての知識や理解を深めてもらおうという企画で、今年で4回目。ちびっこ白衣体験や看護師体験、顕微鏡・エコー検査の模擬体験、吹奏楽やダンスといったステージイベントなどが行われ、終日大勢の人でにぎわいました。中でも手術室体験は大人気で、参加者は実際の手術室で、電気メスや縫合、骨接合などを体験。楽しみながら、医師や看護師の仕事の大変さを学んでいました。



僕・私を作る！ アイデア朝ごはんコンテスト

朝ごはんを食べて1日を元気に



10月20日に「僕・私を作る！ アイデア朝ごはんコンテスト」が吉良町公民館で行われました。食育推進事業の一つで、地元産の食材を取り入れた朝ごはんをテーマに初めて開催。市内の中高生から519点の応募があり、予選審査を通過した7人が本選に臨みました。初めての場所での調理に少し緊張気味の参加者も、いざ始めれば段取り良く作業を進め、50分という制限時間内に色鮮やかでボリュームたっぷりの朝食を完成させていました。

にしお市民討議会

市政運営のアイデアを考える

「にしお市民討議会」が10月28日、西尾コンベンションホールで開かれました。市民の皆さんが積極的に市政に参加するきっかけを作ろうと市が初めて企画したもので、西尾青年会議所と共同で開催。無作為抽出の2,000人から選ばれた10～70代の男女27人が参加しました。「子育て」や「住みやすいまちの在り方」をテーマに、5～6人1組のグループに分かれて活発に意見を交換。グループごとにアイデアをまとめて発表するなど、今後のまちづくりを真剣に考えていました。



17万人市民まると防災訓練

災害はいつ起こるか分からない



11月5日、南海トラフ地震を想定した「17万人市民まると防災訓練」が行われました。市内各地で、緊急地震速報に併せて自分の身を守るためのシェイクアウト訓練、安否を知らせるための黄色いタオル作戦など、状況に応じた訓練が展開されました。横須賀公園で行われた総合防災訓練には、地元住民や児童・生徒など約2,300人が参加。緊急物資の搬送やAEDの取り扱い、給水訓練などに積極的に参加し、防災への意識を高めていました。